

令和 6年 6月 5日

オランザピンがカルボプラチンに伴う悪心・嘔吐の予防に有効！ ～患者さんに優しいがん治療へ期待～

<研究成果のポイント>

- オランザピンが細胞障害性抗癌剤カルボプラチンによる悪心や食欲低下の出現を抑制します。
- カルボプラチンを用いたがん治療を受ける患者さんにとって、オランザピンを併用した制吐療法が有益です。
- 浜松医科大学および静岡県内の関連 15 病院での共同研究の成果です。

※本研究成果は、腫瘍学領域で非常に影響力の強い、米国臨床腫瘍学会誌「**Journal of Clinical Oncology**」(インパクトファクター: 45.4)に**日本時間 6月5日午前5時**に公表されました。

<概要>

本学臨床薬理学講座の乾直輝教授らの研究チームは、細胞障害性抗癌剤カルボプラチンに伴う悪心・嘔吐 (CINV *) の予防に、オランザピンを併用した制吐療法が有用であることを明らかにしました。本研究は本学附属病院呼吸器内科、腫瘍センター、薬剤部、臨床研究センターおよび本学と関連する静岡県内の 15 病院との共同研究によるもので、がん薬物治療の進歩に大きく貢献する浜松医科大学発の研究成果となります。

がん薬物治療を行う時には、患者さんが安心して治療が受けられるように、副作用対策をしっかり行うことが重要です。本研究成果により、カルボプラチンを用いたがん治療を受ける患者さんにとって、オランザピンを併用した制吐療法が有益であることが確認されました。オランザピンを併用した制吐療法の世界的な普及が期待されます。

この研究成果は、腫瘍学領域で非常に影響力の強い、米国臨床腫瘍学会誌「**Journal of Clinical Oncology**」(インパクトファクター: 45.4)に日本時間 6月5日に公表されました。

<研究の背景>

細胞障害性抗癌剤 (こうがんざい=がん細胞を死滅させる薬) などの薬を用いた、がん薬物治療を行う時に、嘔吐 (おうと=吐くこと) や悪心 (おしん=吐き気)、食欲低下などの副作用が発現することがあり、がん薬物療法に伴う悪心・嘔吐 (CINV) と呼ばれています。がん薬物治療では、患者さんの QOL (生活の質) を保ち、安心して治療が実施できるように、この CINV が発現しないように予防することが重要です。かつては、CINV による苦痛のため、抗癌剤の投与を中止したり延期することが必要となり、結果として治療が不十分となる患者さんも多かったですが、現在では予防的に制吐剤 (吐き気止め) を使って対応しています。

肺癌や婦人科癌などで頻用されるカルボプラチンは、投与当日から投与後 5 日程度まで高頻度で CINV が発現します。カルボプラチンを投与する時は、3 種類の予防薬を用いて対応していますが、十分な予防ができていないことが問題でした。

<研究手法・成果>

浜松医科大学医学部附属病院および関連する静岡県内の 15 病院で、カルボプラチンを用いた治療を受ける患者さんを、従来の 3 種類の予防薬を用いるグループと、3 種類に加え、オランザピンという薬を追加するグループに無作為に振り分ける第 3 相試験 *2 を実施しました。この研究では、カルボプラチン投与してから 5 日間の、嘔吐、悪心、食欲低下などの出現頻度を比較しました。378 人を対象に研究を行なった結果、オランザピンを追加したグループで、悪心や食欲低下の出現する患者さんが少ないことが分かりました。

<今後の展開>

がん薬物治療は、カルボプラチンのような細胞障害性抗癌剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤などを組み合わせて個別化治療を行うことが重要です。どの薬を用いる場合も、患者さんが安心して治療が受けられるように、副作用対策をしっかりと行うことは必須となっています。オランザピンはもともと精神疾患に対して使用される薬ですが、他のグループによって行われた研究で、シスプラチンという抗癌剤のCINVを予防することが知られていました。今回の研究によって、オランザピンを併用したCINVの予防が、より多くの患者さんが使用するカルボプラチンによるCINV対策にも有用であることが分かりました。オランザピンの使用によって患者さんの負担を軽減したがん治療が可能になると期待されます。

<用語解説>

- *1 CINV：がん薬物療法に伴う悪心・嘔吐。がん治療に用いる薬物によって発現する、嘔吐や吐き気、気持ち悪い感じを指します。がん薬物療法では多くの副作用が生じますが、実際に患者さんが辛いと感じる代表的な副作用です
- *2 第3相試験：多数の患者さんを対象に、現在多くの患者さんに使われている標準な治療と比較して、その治療法の有効性と安全性を最終的に確認します

<発表雑誌>

Journal of Clinical Oncology (DOI : 10.1200/JCO.24.00278)

アメリカ臨床腫瘍学会 (ASCO) の Journal Citation Reports による Journal Impact Factor は 2022 年度版で 45.4 と報告され、Oncology 領域で影響力の最も強い雑誌の 1 つです。

<論文タイトル>

Olanzapine plus Triple Antiemetic Therapy for the Prevention of Carboplatin-induced Nausea and Vomiting: A Randomized, Double-blind, Placebo-controlled Phase III Trial

<著者>

乾直輝、鈴木貴人、田中和樹、井上裕介、柄山正人、森和貴、安井秀樹、穂積宏尚、鈴木勇三、古橋一樹、藤澤朋幸、松浦駿、西本幸司、松井隆、朝田和博、橋本大、藤井雅人、丹羽充、上原正裕、松田宏幸、幸田敬悟、池田政輝、伊波奈穂、田宮裕太郎、加藤真人、中野秀樹、見野靖晃、榎本紀之、須田隆文

<研究グループ>

浜松医科大学臨床薬理学講座、同内科学第二講座、同医学部附属病院薬剤部、静岡県内 15 の関連病院

<研究支援>

本研究の一部は、日本臨床薬理研究振興財団による研究奨励金を用いて行われました。

<本件に関するお問い合わせ先>

国立大学法人浜松医科大学臨床薬理学講座
〒431-3192 浜松市中央区半田山 1-20-1
教授 乾 直輝
Tel: 053-435-2385 Fax: 053-435-2386

<報道に関するお問い合わせ先>

国立大学法人浜松医科大学
〒431-3192 浜松市中央区半田山 1-20-1
総務課広報室
Tel: 053-435-2151 Fax: 053-435-2112 E-mail: koho@hama-med.ac.jp